

2023.11.9 (木) 第37回法人会全国青年の集い山形大会

全法連青連協 健康経営プロジェクトアドバイザー 吉村 健佑 氏の総評コメント

本日は租税教育活動プレゼンテーションから健康経営大賞の事例発表まですべて見させていただいたが、素晴らしい取り組みが沢山見えてきた。

とくに健康経営について申し上げますと、まず自分自身も3500名が勤務する大学病院で教員と産業医を勤めており、部下を11名抱え、経営者である皆さまとも少し近い立場かも知れません。

大学病院も意思決定している人たちは、ほぼ60歳を超えている先生方、そして5年以内には退官される方がほとんどである。

私は45歳であるが、我々の世代はあと20年くらい現場で頑張らなければいけない、場合によっては30年くらいです。

もう逃げきれない世代です。この状況の中で、職場を支えていく、維持していく必要がある。

少し広い話をするが、日本はそろそろGDPが世界4位に落ちてしまうことがほぼ確定している。今までは、3位まではよかったです。アメリカや中国はあれだけ大きな国であるし。今度は人口8300万人のドイツに越されるわけです。

何が足りないのか。我々1人1人の労働生産性がまだ伸びる余地があるということ、そして、今までのやり方だけではだめなのではないか、これがマクロの視点で見たときのこの国の状況です。

ですので、この世代からどうやって行動変容するか。組織のあり方を変えるか、ということが大事である。

本題に入ると、健康経営は2本の柱から成り立っている。

一つ目は体(フィジカル)、ソーシャル、メンタルの健康を高めて、お話のありました、会社に行くのが楽しいなどの、ソーシャルキャピタル(=人々が持つ信頼関係や人間関係のこと[Wikipediaより抜粋])を増進させることがひとつの柱、もうひとつは医療費を大事に適切に使おうということです。

本日発表された10の事例は、前半にかなりフォーカスされた取組が多かったように思う。

ジェネリックシール普及を頑張っている事例があったことは嬉しかったですし、私も医療現場に立っていると、診療費の負担が(諸外国より)少ないですから、どうしても気軽にかかりたくなる。

そして、かかったらできるだけ濃厚な医療を受けたい、これが人間(人情)なのです。

しかしながら我々の世代はそうはいきません。少ない人間で少ない財源を皆で分かち合いながら使わなくてはならない。それをもっと多くの人たちに伝えていくことが大切ではないか。

健康経営大賞の事例発表をするうえでどこがポイントになるのか、3つのポイントをお伝えしたい。

一つ目は定量化する、ないしは科学的根拠を明確にする。たとえば参加人数ですとか、延べ人数ないしは前後比較という形で数値を示す、医療費の削減効果がこれくらいあったのではないかと、色々な仮定を置いてもいいので、数字をきちんと示していくこと、これは活動を広げていくうえで重要でしょう。

二つ目はその事業所とか地域の課題を明確にして、それに対応することである。もっと言うとその地域や事業所の資源、強みを活かしてそれを出していくこと。全国一律で同じことをやっても面白くありません。そうではなくて、うちの事業所、うちの単位会はこんなことをやっている、ということアピールしてもらおう。それを上手にやった事業所がいくつかありましたね。

三つ目は何か。やっているうちに楽しくなってくる。気づいたらもうやっている。ないしは、こんな健康になるというスローガンではなくて、よい職場にしようぜと皆が取り組める。それがあると続きますよね。

このことは我々より上の世代には無い、発想なのかも知れません。青年部会の世代だからこそ取り組めるのだと思います。

今日の審査発表は明日ですね。その場を楽しみにしたい。

来年はこの発表を少しでも多くの事業所、単位会に見ていただき、これならば自分たちにもできるのでは、と思ってもらえる人が増えれば、プラスになるのではないかと。

法人会の集まりに来て思うのは、やはり喫煙率が高いということ。

経営者は皆さんとも喫煙してしまっているの、まずは禁煙から取り組みませんか。賛成の拍手もいただきました。

心の中では止めたいけれども、友達が皆行ってるから自分も行きたくなるというのは、そろそろ止めてもいいかと思えます。

煙草を吸っていない経営者は格好いいと思えます。新入社員も入るし、若い人が来たい、親御さんもその会社に入りたいと思えます。

以上で総評コメントとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。